

平成19年度 かんた連雀 事業報告書要約

平成19年度の概況

開設4年目を向かえ、安定した運営を目標に、サービスの質向上をめざした。

- 特別養護老人ホーム 定員55名
 - 前年度の引き続き、平均介護度4.5と重介護状態が続く、嘱託医、看護、近隣医療機関との連携を強化。施設での看取りの希望にも積極的に応えた。年間稼働率 93.6% 待機者数 161名
 - 人材不足を派遣職員にて対応したが、財政面では厳しく今後の課題大きい。
- 高齢者在宅サービスセンター
 - 短期入所生活介護(ショートステイ) 定員5名 空床2名 年間稼働率 108.8%
 - 通所介護(デイサービス) 定員15名 年間稼働率 76% 平均介護度2.2
- 千代田区神田地域包括支援センター
 - 困難事例については関係者と良好な連携を図った。また、高齢者事業への参加意識を高める工夫をし、プラン作成件数を大幅に増加させた。
 - 区の虐待ゼロワーキングチームに参加。相談事例も増加。
 - ケアマネ連絡会の運営委員や施設の運営協議会のメンバーとして活動。
 - 神田で元気にながいき教室を年6回開催。介護予防ケアプランを113件作成。
- 居宅介護支援センター
 - 地域包括支援センター、高齢者在宅サービスセンターと連携し、困難ケースや、緊急対応の受け入れを可能にした。
 - サービス担当者会議の開催により、各事業所と連携し、住み慣れた地域で暮らし続けることへの支援をした。
 - ご利用者様・ご家族様に対し、制度改正後の混乱を緩和するよう努めた。
- 千代田区営神田淡路町高齢者住宅
 - 居住者が24時間安心した生活が継続できることを目的とし、居住者間の親睦・閉じこもり防止・相談業務等の強化・地域交流に努めた。
 - 入居世帯 21世帯(23名) 茶話会・地域交流・コミュニティ活動 年間 19回
 - 相談業務 年間 207件 緊急対応 年間 40件 センサー対応 年間 33件

平成19年度の課題

- 施設の命題は利用者サービスに徹することである。

- 「介護保険制度見直し」の対応・対策
- 人材育成
 - 神田事業所の連携による人材育成
 - 職員体制の充実
 - 職員資質の向上⇔外部研修への派遣、法人研修、事業所研修、施設内研修、海外交換研修(スウェーデン、韓国)等
- ユニット的ケアの推進
 - より身近に一人ひとりの生活を尊重したサービスの提供
 - 生活を継続する意味を大事にする。(在宅の延長線上にホーム等の生活がある。)
- サービス評価への取組み
 - 法人自己評価の評価値向上
 - 第三者評価とオンブズパーソン(千代田区及び運営協議会員)の取組み
- リスクマネジメント⇔事故防止と衛生管理(特に感染予防)の徹底
- 各事業ごとの利用率アップ⇔目標達成
- 地域交流
 - 町会との連携
 - 実習生・ボランティアの受入れ
 - シルバーパワーの活用
 - 中学生介護体験の受け入れ
 - 保健所研修医・日大歯学部歯科衛生士実習生の受入れ
 - 介護福祉士・社会福祉士養成実習生受入れ

| | | サービス利用・提供状況 | 平成19年度事業計画の執行評価 |
|--------|--------|--|---|
| 運営・管理 | 事務局担当 | 1 経理 業者支払い業務等本部集約により従来の施設業務が減り、効率的に遂行できた。またコスト管理意識を職員全員に周知し、徹底を図った。 2 請求 本部集約と神田事業所の連携により確実にスムーズな処理ができ、業務のスケジュール化も可能になった。また法人内他施設の状況も少しづつ理解できるようになった。 3 庶務 勤怠管理システムの導入により、効率的で確実な勤怠管理を目指し、職員への諸届け提出の徹底に努めた。 | 1 全職員が工夫し、コスト管理や節約に心がけ、その中で充実したサービスを提供することができた。 2 神田事業所の連携や本部集約業務により施設横断のつながりが強くなり業務へ生かすことができた。 |
| | サービス向上 | 1 相談員体制の確立:相談員2名が確実に相談員業務に就けるよう介護現場のシフトを強化にした。さらにそのバックアップとして次長職を設置し、3人体制で相談業務に対応することにより、ご利用者ご家族、職員すべての相談を常時受け入れる体制を確保し、安定した運営によるサービスの向上を可能にした。 2 嘱託医、近隣医療機関との連携を強化:ご利用者の状態に変化が生じたとき、早急にご家族、嘱託医との情報交換、意思確認が可能になり適切な対応に繋がった。 | 1 サービスの質の向上を図れた。 2 施設運営協議会は年間2回開催 3 苦情には早急に対応した。 4 第三者評価でも高評価を得た。 5 海外からの研修生受け入れ。 6 施設内研修体制の強化をした。 |
| 支援センター | 地域包括 | 1 相談に対し、速やかに対応し、困難事例については関係者との連携のもとで対応した。 2 特定高齢者事業への参加意識を高める工夫をし、プラン作成件数が29件と前年度を大幅に増加した。 3 区の虐待ゼロワーキングチームに参加し、通報の流れや判断基準作りに取り組み相談事例も増えた。 4 ケアマネ連絡会の運営委員や施設の運営協議会のメンバーとして活動した。 5 神田で元気にながいき教室を年6回、おたよりを4回発行した。サービス未利用者にも郵送した。 6 要支援1.2の方に介護予防ケアプランを113件作成した。 | 1 総合相談は速やかに対応できた。 2 特定高齢者プランは大幅に前進した。 3 虐待防止は着実に一步前進した。 4 ケアマネ支援はきめ細かく支援できた。 5 教室の出席者数は伸びている。 6 要支援プランは件数、内容とも安定した。 |
| | 居支 | 1 地域包括支援センター・デイサービス・ショートステイと情報共有し困難ケースや緊急対応を受け入れた 2 サービス担当者会議の開催により、各事業所と連携し、課題やニーズを解決するための共通認識を持ち、住み慣れた地域で暮らし続けることへの支援をした。 3 対象地区を神田エリアに限定したことにより、効率的に訪問ができ、サービスの向上が図れた。 | 1 デイサービス・ショートステイ、地域包括と同法人であるメリットを十分に活かすことができた。 2 それぞれと連携を取り支援した。 |
| | デイ | 1 稼働日 年間310日 延べ利用者3,544人 年平均稼働率 76% 月平均利用者数 298人 2 通所介護計画書の作成・モニタリングを行い、プラン作成 ⇒ 活動の実施という流れを作った。 3 活動の担当を明確に決め、少ない職員配置の中、計画性のある活動メニューを提供できるようにした。 | 1 通所介護計画書の定期的な更新が今年度は実施できた。 2 稼働率は増加し、利用者人数も増加したが、職員のスキル不足は否めず課題を呈した。 |
| ホーム | 特養 | <ホーム> 1 個別援助の徹底:個別援助計画について、より個別的な援助を行うことができるように徹底を図った。 2 サービスマナー向上:「利用者には深い共感を持ち、親切丁寧を旨とし、その言語態度には慎重かつ細心の注意を払い、不安と不信および不快の念を抱かせてはならない」を念頭に利用者に対する言葉使いや態度への意識を高めるよう努力した。 3 職員体制を拡充し、職員確保を図った。介護技術向上のため研修委員を設け施設内研修を積極的に行うことで技術の向上を図った。 4 サービス向上のための会議・各委員会・研究会の有効活用:各会議を定期的で開催することで、より専門性を高める努力に努めた。 <ショートステイ> 1 個別援助計画の継続と書式の見直し:個別援助計画の継続を行いながらも、書式を見直し反映させることで、更に滞在を楽しんでいただけるように努めた。 2 滞在中の空間整備:季節を感じていただく工夫や食事を楽しんでいただく工夫など環境整備に努めた。 | 1 個別援助計画は立てたものの、実際援助への反映には課題が多い。 2 派遣職員などの活用により体制の確保はできた。 3 介護技術においても、各研究会等を通じて積極的な研修に取り組めた。 4 各会議を開催できたことで、質の高い会議体を持たた。 1 個別計画の書式見直しが出来ず個別の目標などを反映できなかった 2 装飾の工夫を行うことで、利用者からは好評を得た。 |
| | 看護 | 1 個別援助計画のモニタリング、それに基づいた援助の統一:身体状態を集約し担当者会議に出席し意見を述べた。介護と協力し看取りのケアに取り組んだ。 2 感染予防対策:予防接種、研修、手洗い、うがいの励行、健康状態のチェック等を実施した。 3 救急時の対応:相談員と連携し、嘱託医・協力病院につなげた。 4 職員の健康管理および知識技術の向上:定期健康診断(6月・12月) 検便(毎月) 感染症予防、褥瘡吸引 異物除去 食事等の研修 | 1 介護とより情報の共有が図れた。 2 看取りは試行錯誤の一年であった。 3 感染症の羅患は無かった。 4 嘱託医との連携がスムーズになった。 5 職員のレベルアップの意識は高い。 |
| 連携 | 食事 | 1 一日提供食数 172食 年間提供数 62867食 2 一日平均栄養素 1554kcal たんぱく質57.7g 塩分9.2g 3 フロア職員の協力のもと、嗜好・残菜調査を行い、利用者ニーズの把握に努めた。 4 ソフト食の試作を行い、敬老の日などの行事食で、ベースト食を形あるものとして提供し好評を得た。 5 危険な食品が出回る中、業者への証明書提出を求めたり、危険食品を排除するなどの対応を行い安全な食事の提供を努めた。 | 1 岩本町と連携し、職員技術の向上を図れることができた。 2 ソフト食の試作に取り組んだが、実際にできたのは行事の時のみであった。次年度の継続課題としたい。 |
| | 高齢者住宅 | 1 千代田区からの受託事業、かんた連雀から3分程度の場に位置し、連雀・神田地域包括支援センターと連携協力し、居住者が24時間安心した生活が継続できることを目的とした。 2 具体的な取り組み:居住者間の親睦・閉じこもり防止・相談業務等の強化(各関係機関との連携調整) 地域交流(淡路町2丁目町会)を実施した。 | 1 高齢者住宅も平成16年2月に設立され、4年目を迎えた。ほとんどが一人世帯のため、茶話会・地域交流・コミュニティ活動を通し、居住者間の親睦や閉じこもり防止に努めた。 |